

## 2 生分解性マルチの特徴

### (1) 生分解性マルチとは

- ・生分解性マルチは、作物生育期には通常のポリエチレンマルチと同様の機能を有しているが、収穫間際になると土壤中の微生物により分解を始め、収穫後に土壤中にすき込むと最終的には水と二酸化炭素に分解されるマルチである。省力面、環境面、経済面、安全面のメリットがある。
- ・農業用生分解性資材普及会(ABA)に所属する企業が製造販売している生分解性マルチは、日本バイオプラスチック協会(JBPA)の「生分解性プラ識別表示制度」<sup>3)</sup>を受けたものである。
- ・農業生産に使用した完全分解性の生分解性プラスチックを自ら土壤にすき込む場合は、産業廃棄物の中間処理に該当する。使用後の生分解性マルチが周辺に飛散することがないように、適正に処理する必要がある。

※「生分解性マルチの活用事例」(平成31年2月農林水産省生産局)から引用。

### (2) 使用上の留意点

- ・長期保管中に加水分解と裂化により強度や機能が低下するため、購入後1年以内に使う。  
※「生分解性マルチフィルム普及マニュアル」(農業用生分解性資材普及会)から引用。
- ・マルチャーで問題なく、展張することができる(図4)。
- ・一般的な抑草効果はあるが、葉先の鋭利な雑草(カヤツリグサ科雑草など)が生分解性マルチを突き抜ける場合がある(図5)。
- ・生分解性マルチには微細な孔があるため、一般的に生分解性マルチは農ポリマルチより地温が上がりにくく、乾きやすい傾向がある(図6、図7)。



図4 マルチ展張



図5 抑草効果

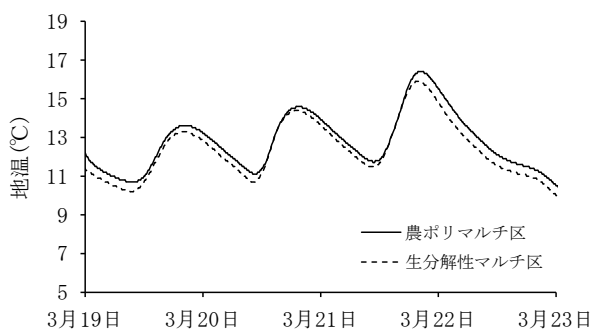


図6 サトイモ栽培中の地温(地下10cm)

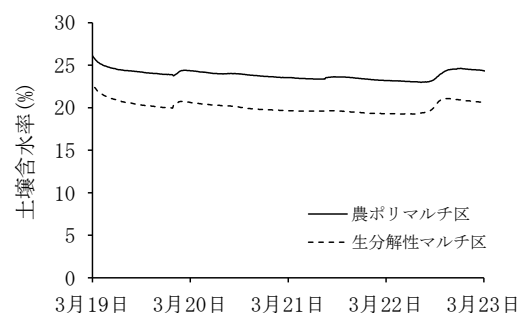


図7 サトイモ栽培中の水分(地下10cm)